十和田観光鉄道活性化協議会の設置

本協議会を構成する十和田市長をはじめ、三者に電車への思いを伺いました。

十和田観光鉄道活性化協議会の概要

平成18年4月28日に沿線の2市1町（十和田市、三沢市、六戸町）を含む8市町村と沿線の5県立高校の校長や沿線住民代表などで構成・設立されました。

列車の衝突や脱線、横転事故等の鉄道の重大事故が多発したことを背景として、「緊急保全整備事業」が国から義務付けられ、平成20年度までに完了しなければ、鉄道事業を継続できなくなる可能性もあることから、沿線2市1町が中心となり、利用促進と財政的な支援を行うこととなりました。

具体的な活動内容

▼「鉄道利用促進及び安全運行対策事業」のための「パートナーシップテーブル」を開催

▼平成18年9月に、5県立高校の電車を利用している生徒250人に、アンケート実施

▼平成18年10月14日に、「マイレール意識を醸成するためには」をテーマとして、4県立高校ワークショップを開催

▼高校生を対象とした電車の利用促進を呼びかけるパンフレット作成・配布

中野渡 春雄 十和田市長
HARUO NAKANOWATARI
（本協議会 会長）

歴史ある鉄道を存続させるために

十和田観光電鉄は、大正11年の開業以来、市民の公共交通機関として重要な役割を担ってまいりました。

現在にあっても、通勤・通学をはじめとする地域住民の日常生活を支えるとともに、本県を代表する観光地である「十和田湖」や「奥入瀬渓流」への交通手段としての役割を担うなど、地域の産業経済、教育、文化などの振興に大きく寄与しています。

しかしながら、少子化やモータリゼーションの進展等の影響から、昭和45年当時には年間約165万人もあった利用者が、現在では約54万人まで減少し、厳しい経営を強いられています。

特に、鉄道利用者の約8割が高校生であり、生徒たちの通学の足を奪わないためにも、鉄道の維持・存続を支える地域力の結集が求められています。

現在、沿線自治体（十和田市、三沢市、六戸町）では、鉄道事業者に対し義務化された「緊急保全整備事業」への財政支援を行うとともに、「十和田観光鉄道活性化協議会」を設立し、鉄道の利用促進と安全確保対策の充実に向けた取組を進めています。

また一方で、電車の清掃や路線のゴミ拾いなど、地域住民による自主的なボランティア活動が行われていることを大変心強く思っています。

こうした状況の中、歴史ある鉄道を将来にわたって存続させていくためには、地域に密着した交通機関としての魅力の向上と、持続的な利用促進を図っていくことが絶対条件であります。

そこでは、企業としての自助努力はもちろんのことですが、地域における「自分たちの鉄道だ」という意識の醸成のもとに、地域活動としての広がりを見せていくことが重要であると考えています。

いずれに致しましても、厳しい環境下にある鉄道事業でありますが、抱えている多くの課題を、鉄道事業の健全化に向けた官民一体となった活動展開のもとで、乗り越えていくことを念願しております。

電車の清掃活動を続ける「地域住民の足を守る会」

市内の住民有志で組織されている団体で、地域住民の足となる公共交通などの生活路線の維持確保を目的としています。

最近の主な活動は、春と秋に十和田観光電鉄七百駅構内（六戸町）で電車を洗い、清掃するボランティア活動を行っています。年間を通して、本市を訪れる観光客や高校生の通学の足として活躍している本電鉄の車両を、きれいに保ちたいと会員のほかに高校生ボランティアを募っています。

本年度は7月27日に実施し、小雨の降る中約20人の参加者が、2両の車内を掃除したり、金たわしで擦り銀色の車体に磨きをかけました。

会長の杉山道夫さんは、「観光都市としてのイメージアップにつながるように、これからも電車のためのボランティア活動を続けたい」と話しています。